

## 第一百八十五回国会

## 参議院法務委員会議録第七号

平成二十五年十一月二十一日(木曜日)  
午前十時開会

出席者は左のとおり。

委員長

理 事

委 員

荒木 清寛君

吉田 博美君

若林 健太君

小川 敏夫君

真山 勇一君

石井 準一君

富沢 洋一君

柳本 阜治君

山下 雄平君

有田 芳生君

江田 五月君

佐々木さやか君

仁比 聰平君

前川 清成君

谷 亮子君

糸数 慶子君

國務大臣

法務大臣  
副大臣

法務副大臣  
大臣政務官

事務局側  
常任委員会専門員  
樺原 利明君

平口 洋君

奥野 信亮君

谷垣 稔一君

本日の会議に付した案件  
○裁判官の配偶者同行休業に関する法律案(内閣提出、衆議院送付)

○委員長(荒木清寛君) ただいまから法務委員会を開会いたします。

○裁判官の配偶者同行休業に関する法律案を議題といたします。

政府から趣旨説明を聴取いたします。谷垣法務大臣。

○國務大臣(谷垣稟一君) 裁判官の配偶者同行休業に関する法律案について、その趣旨を御説明いたします。

政府においては、外国で勤務等をする配偶者と

生活を共にする希望建立する有為な国家公務員の継続的な勤務を促進する必要があるという現状に鑑み、一般職の国家公務員について配偶者同行休業の制度を導入するため、国家公務員の配偶者同行休業に関する法律案を提出しているところであります。

裁判官についても、これと同様の趣旨で配偶者同行休業制度を導入する必要があります。

この法律案は、裁判官が外国で勤務等をする配偶者と生活を共にするための休業に関する制度を設けようとするものでありまして、以下その概要を申し上げます。

第一に、裁判官が、外国での勤務その他の最高裁判所規則で定める事由により外国に住所又は居所を定めて滞在するその配偶者と、当該住所又は居所において生活を共にするための休業として、配偶者同行休業を設けることとしております。

第二に、最高裁判所は、裁判官が配偶者同行休業を請求した場合において、裁判事務等の運営に支障がないと認めるときは、配偶者同行休業をすることを承認することができます。

第三に、施行期日について規定するとともに、

関係法律について必要な規定の整備を行うこととしております。

以上が、この法律案の趣旨であります。

何とぞ慎重に御審議の上、速やかに御可決ください。

さいますようお願いいたします。

○委員長(荒木清寛君) 以上で趣旨説明の聴取は終わりました。

本案に対する質疑は後日に譲ることとし、本日はこれにて散会いたします。

午前十時二分散会

○委員長(荒木清寛君) 以上で趣旨説明の聴取は終わりました。

本案に対する質疑は後日に譲ることとし、本日はこれにて散会いたします。

○委員長(荒木清寛君) 以上で趣旨説明の聴取は終わりました。

本案に対する質疑は後日に譲ることとし、本日はこれにて散会いたします。

十一月二十日本委員会に左の案件が付託された。

一、裁判官の配偶者同行休業に関する法律案

裁判官の配偶者同行休業に関する法律案

支障がないと認めるときは、三年を超えない範囲内の期間に限り、当該裁判官が配偶者同行休業をすることを承認することができる。

前項の請求は、配偶者同行休業をしようとする期間の初日及び末日並びに当該裁判官の配偶者が当該期間中外国に住所又は居所を定めて滞在する事由を明らかにしてしなければならない。

配偶者同行休業の期間の延長を請求することができる。

配偶者同行休業をしようとする期間が三年を超える範囲内において、延長をしようとする期間の末日を明らかにして、最高裁判所に対し、配偶者同行休業の期間の延長を請求することができる。

(配偶者同行休業の期間の延長)

第四条 配偶者同行休業を開始した日から引き続き配偶者同行休業をしようとする期間が三年を超える範囲内において、延長をしようとする期間の末日を明らかにして、最高裁判所に対し、配偶者同行休業の期間の延長を請求することができる。

(配偶者同行休業の期間の延長)

第五条 配偶者同行休業をしている裁判官は、裁判官としての身分を保有するが、その配偶者同行休業の期間中報酬その他の給与を受けない。

2. この法律において「配偶者同行休業」とは、配偶者同行休業の承認によるものとする。

3. 前条第一項の規定は、配偶者同行休業の期間の延長の承認について準用する。

(配偶者同行休業の効果)

第五条 配偶者同行休業をしている裁判官は、裁判官としての身分を保有するが、その配偶者同行休業の期間中報酬その他の給与を受けない。

2. この法律において「配偶者同行休業」とは、配偶者同行休業の承認によるものとする。

3. 前条第一項の規定は、配偶者同行休業の期間の延長の承認について準用する。

(配偶者同行休業の効果)

第六条 配偶者同行休業をしている裁判官が裁決には、その効力を失う。

一、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

二、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

三、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

四、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

五、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

六、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

七、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

八、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

九、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

十、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

十一、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

十二、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

十三、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

十四、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

十五、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

十六、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

十七、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

十八、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

十九、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

二十、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

二十一、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

二十二、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

二十三、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

二十四、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

二十五、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

二十六、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

二十七、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

二十八、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

二十九、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

三十、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

三十一、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

三十二、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

三十三、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

三十四、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

三十五、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

三十六、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

三十七、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

三十八、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

三十九、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

四十、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

四十一、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

四十二、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

四十三、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

四十四、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

四十五、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

四十六、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

四十七、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

四十八、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

四十九、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

五十、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

五十一、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

五十二、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

五十三、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

五十四、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

五十五、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

五十六、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

五十七、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

五十八、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

五十九、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

六十、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

六十一、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

六十二、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

六十三、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

六十四、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

六十五、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

六十六、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

六十七、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

六十八、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

六十九、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

七十、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

七十一、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

七十二、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

七十三、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

七十四、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

七十五、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

七十六、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

七十七、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

七十八、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

七十九、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

八十、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

八十一、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

八十二、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

八十三、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

八十四、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

八十五、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

八十六、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

八十七、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

八十八、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

八十九、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

九十、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

九十一、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

九十二、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

九十三、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

九十四、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

九十五、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

九十六、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

九十七、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

九十八、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

九十九、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

一百、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

一百一、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

一百二、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

一百三、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

一百四、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

一百五、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

一百六、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

一百七、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

一百八、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

一百九、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

一百二十、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

一百二十一、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

一百二十二、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

一百二十三、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

一百二十四、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

一百二十五、当該配偶者同行休業をしていて裁判官が裁決には、その効力を失う。

<p>2 最高裁判所は、次に掲げる場合には、配偶者同行休業の承認を取り消すものとする。</p> <p>一 当該配偶者同行休業をしている裁判官が当たった場合</p> <p>二 当該配偶者同行休業をしている裁判官が当該配偶者同行休業に係る配偶者と生活を共にしなくなつた場合</p> <p>三 その他最高裁判所規則で定める場合</p> <p>(配偶者同行休業をした裁判官についての国家公務員退職手当法の特例)</p> <p>第七条 国家公務員退職手当法（昭和二十八年法律百八十二号）第六条の四第一項及び第七条第四項（最高裁判所裁判官退職手当特例法（昭和四十一年法律第五十二号）第三条第二項において準用する場合を含む。次項において同じ。）の規定の適用については、配偶者同行休業をした期間は、国家公務員退職手当法第六条の四第一項に規定する現実に職務をとることを要しない期間に該当するものとする。</p> <p>配偶者同行休業をした期間についての国家公務員退職手当法第七条第四項の規定の適用については、同項中「その月数の二分の一に相当する月数（国家公務員法第八条の六第一項ただし書若しくは特定独立行政法人の労働関係に関する法律（昭和二十三年法律第二百五十七号）第七条第一項ただし書に規定する事由又はこれらに準ずる事由により現実に職務をとることを要しなかつた期間については、その月数」とあるのは、「その月数」とする。</p> <p>(最高裁判所規則)</p> <p>第八条 この法律の実施に関し必要な事項は、最高裁判所規則で定める。</p> <p>附則</p> <p>(施行期日)</p> <p>1 この法律は、公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次項の規定は、国家公務員の配偶者同行休業に関する法律（平成二十五年法律</p>	<p>第 <u>          </u>号の施行の日又はこの法律の施行の日のいすれか遅い日から施行する。</p> <p>(国家公務員の留学費用の償還に関する法律の一部改正)</p> <p>(平成十八年法律第七十号)の一部を次のよう改訂する。</p> <p>第十条の表第三条第三項第六号の項中「裁判所職員臨時措置法」を「裁判官の配偶者同行休業に関する法律（平成二十五年法律第 <u>          </u>号）第三条第一項又は裁判所職員臨時措置法」に改める。</p> <p>(調整規定)</p>